



森と水の源流館 だより

霜月 2008年11月 vol.71

電話)52-0888 fax)52-0388(水曜休館)

森と水の源流館主催行事「バッタリンピック」 を和歌山市で開催！



吉野川紀の川流域をつないでの交流を活発化させていきます



吉野川紀の川をつないでの交流をこれまでも活動してきましたが、今回は水ときらめき紀の川館の協力を得て、はじめて和歌山市で主催行事を行うことができました。

このバッタリンピックでは、そこに生息するバッタ類を採集して調べ、種類ごとの飛距離を競いました。こうした行事をきっかけにして吉野川紀の川流域の自然環境をみなさんと調べてゆければいいなと考えています。

今後とも流域交流を推進するためにさまざまな形で、流域での活動を活発化させていきます。今後の行事もご期待下さい。



午前中はバッタの授業とシュロの葉っぱでバッタづくり。講師は「バッタ・コオロギ・キリギリス図鑑」の著者河合正人さんにおねがいしました。

午後から河合さんの指導で、バッタ採集。9種類見つかりました。その後のバッタ飛ばしでは9mも飛んだバッタもいました。



10/19 後南朝隠平ウォーク

落ち葉を踏みしめ、遠くにシカの声聞きながら、三之公の隠平行宮跡までのウォークを楽しみました。「明神滝」を越え、「二の滝」・「南朝の宝蔵」を過ぎ、時にはロープに掴まりながら、ようやく「隠平」に到着しました。イベントの4日前に柏木の人たちと一緒に道を直しましたが、それでも結構きつい山道でした。

尊義王墓前の川原で水を汲み、ササ茶をわかし、トチ餅・ユズ餅・柿の葉寿司を味わいました。大阪から参加された方が多かったので、川上村の伝統食はとても喜んでもらえました。

「隠平」は一山越えると三重県に出られます。この他にも村内で後南朝伝承が残る場所や、中世の石造物が残されている場所は、三重県側に向かう道沿いに多く見られます。「隠平」にも三重県から物資を運んだという言い伝えがあります。後南朝の人たちは川沿いの道よりも山を越える道を重視していたのかも知れません。そうすると今は誰一人住んでいない「隠平」もかつてはとてにぎわっていたのかも知れません。森と水の源流館ではこのような歴史ツアーをこれからも開催していきたいと思えます。



行宮跡の碑の前で解説



明神滝前で記念撮影

11/2 香芝市ふれあいフェスタに出展しました

毎年恒例になった、香芝市ふれあいフェスタに出展しました。いつも PR キャラバンや工作体験などご協力いただいている、奈良 21 世紀フォーラムの方にもご協力いただき、今年もたくさんの子供たちが工作体験に参加してくれました。去年参加してくれた子供たちもやってきて、思い思いの作品を仕上げていました。



どんな作品が出来たのかな？

11/1 水源地の森ツアー

今年度最後の水源地の森ツアーは紅葉で染まりはじめた中で開催しました。今回は人数が少なめで健脚ぞろいということもあり、少し足を伸ばして大障子滝まで。

秋のひんやりした心地よい空気とともに森を楽しみました。



スタッフの説明を聞く参加者



源流の主「ナガレヒキガエル」